

予防型獣害対策構築のための調査研究事業

平成 23 年度～26 年度（県単：獣害対策課委託）

福本浩士

近年、三重県においてもニホンジカ（以下、シカ）による農林業被害が増加しており、社会的な問題となっている。とくに、シカによる造林木の剥皮害は剥皮部分から木材腐朽菌が侵入し、材部に変色や腐朽が生じて林業経営に支障をきたす恐れがある。シカによる農林業被害を軽減するためには、シカの個体数管理、生息環境の整備、被害防除が重要であるが、このうち被害防除が早急に取り組むことができる対策である。そこで本研究では、低コストで効果的な剥皮害防止資材を検索することを目的として調査を実施した。

1. PE ネット及び亀甲金網による被害防止効果の検証

三重郡菟野町のヒノキ人工林に設置した剥皮害防止資材（PE ネット、亀甲金網）の 51 カ月後、54 カ月後、56 カ月後の効果を観察した。PE ネット処理では新たな剥皮害の発生は確認されなかった（図 1）。亀甲金網処理は 56 カ月後に角こすりによる樹幹部の剥皮害が確認され、累積被害率が無処理と同程度となった。PE ネットは剥皮害の軽減に効果的な資材であると考えられた。

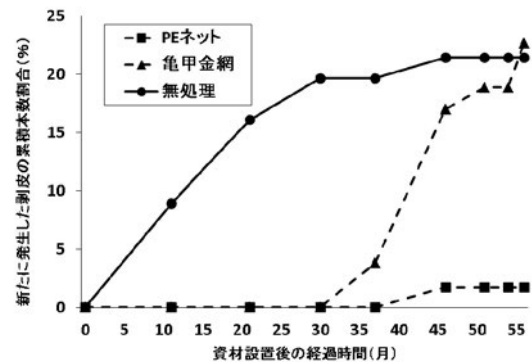


図-1. 各資材を設置した調査木における新規剥皮害累積本数割合の経時変化

2. 伸縮性 PE ネット及び PP バンドによる被害防止効果の検証

三重郡菟野町及び津市美杉町のヒノキ人工林に設置した剥皮害防止資材（伸縮性 PE ネット、PP バンド）の 27、30、32 カ月後及び 28、31 カ月後の効果を観察した。菟野では、32 カ月後に伸縮性 PE ネット処理で角こすりによる樹幹部の剥皮害が 1 本の試験木に発生した。美杉では、28 カ月後に伸縮性 PE ネット処理、PP バンド処理において、それぞれ 2 本の試験木において資材で覆うことができなかつた根張りの先端部に新たな剥皮が発生した。以上の結果から、伸縮性 PE ネットと PP バンドは、根張りからの剥皮が樹幹上方へ拡大することを抑止できる資材であると考えられた。

3. ポリ乳酸製テープによる根張り部の被害防止効果の検証

度会郡度会町のヒノキ人工林に設置した剥皮害防止資材（ポリ乳酸製テープ）の効果を確認した。下層植生の存在がシカによる剥皮害の発生率に影響を及ぼすことから、今年度はすべての試験区で下層植生を取り除き、試験区の条件の均一化を図った。その結果、剥皮害の発生率は試験区間で明瞭な差異が無かった。

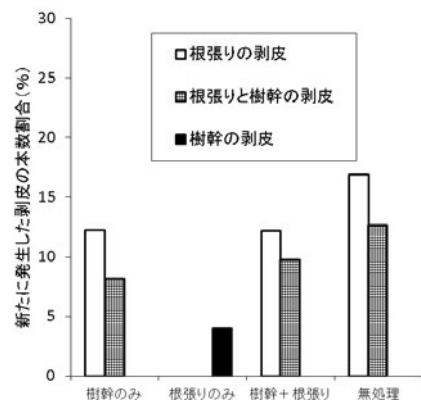


図-2. ポリ乳酸テープの異なる設置方法による新たな剥皮の発生状況